

SCAJニューズレター

# News Letter

vol.47



世界大会結果報告

JHDC、JSC 2015結果報告



SPECIALTY COFFEE ASSOCIATION OF JAPAN

SCAJニューズレター

SCAJニューズレターVol.47 2015年7月31日 発行

一般社団法人 日本スペシャルティコーヒー協会

編集発行人:広報委員会委員長 丸山 健太郎

〒105-8577 東京都港区新橋6-1-11 Daiwa御成門ビル

TEL.03-5400-5506 FAX.03-5400-5613 [www.scaj.org](http://www.scaj.org)

2015 0 NL 47



SCAJニューズレター  
vol.47

SCAJコーヒーカレンダー

2015 July 7月

7月1日	ジャパン サイフオニスト チャンピオンシップ決勝(東京)
7月1日	JBrC/JHDC特別セミナー(チャンピオンセミナー)
7月4日	初級カップングセミナー(名古屋)
7月5日	中級カップングセミナー(名古屋)
7月7日~9日	第8回リトリート(焙煎合宿)・日帰りリトリート半日体験
7月14日~17日	ジャパン バリスタ チャンピオンシップ予選(大阪)
7月15日	第22期コーヒーマスター認定試験(東京、大阪、福岡)
7月18日	JCRC大会予選対策 SCAA方式生豆鑑定セミナー(神戸)
7月21日	JCRC大会予選対策 SCAA方式生豆鑑定セミナー(東京)
7月25日	ジャパン カップテイスターズ チャンピオンシップ予選(東日本)
7月26日	ジャパン カップテイスターズ チャンピオンシップ予選(西日本)

2015 August 8月

8月3日~4日	ジャパン プリユアーズ カップ予選(大阪)
8月4日~7日	ジャパン バリスタ チャンピオンシップ予選(東京)
8月7日~8日	ジャパン プリユアーズ カップ予選(東京)

2015 September 9月

9月4日	SCAJアドバンスド・コーヒーマスター(第2章、第7章)(東京)
9月5日	SCAJアドバンスド・コーヒーマスター(第2章、第7章)(大阪)
9月30日~10月2日	SCAJ2015 東京ビッグサイト西4ホール

Contents [目次]

SCAJ2015 Special Report

- 1 ・SCAJコーヒーカレンダー
- 2 ・SCAA大会、SCAE大会に参加して
- 3 ・ワールド バリスタ チャンピオンシップ(WBC) 2015結果報告
- 4.5 ・世界大会結果
- 6 ・SCAA2015 シアトル紀行
- 7 ・Scott Conary氏によるジャパンバリスタ チャンピオンシップ(JBC)審査員資格認定プログラム
- 8 ・札幌レポート
- 9 ・ジャパン ハンドドリップ チャンピオンシップ(JHDC) 2015結果報告
- 10 ・ジャパン サイフオニスト チャンピオンシップ(JSC) 2015結果報告
- 11-12 ・新委員長紹介
- 13 ・International Women's Coffee Alliance 日本支部設立報告
- 14 ・SCAJ2015告知  
・編集後記

# SCAA大会、SCAE大会に参加して

皆様方におかれましては益々清祥のこととお慶び申し上げます。また、平素より当協会の活動にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

第4代目の会長職を担って、「SCAA2015」(シアトル大会=4月9日~12日)及び「SCAE2015」(ヨーテボリ大会=6月16日~18日)に参加しました。

SCAA(設立1982年)の大会は、本年度も昨年度に引き続きシアトルで行われました。本年度のOfficial Host Sponsorはスターバックス社。Official Portrait Sponsorは、エチオピア。スターバックス社は、シアトルのPike Place Marketに1号店をオープンしてから今年で、44年目。本年度、スターバックスは、1号店から9ブロック離れた場所に、Starbucks Reserve Roastery and Tasting Roomという巨大な店をオープンさせました。この店では、スペシャルティコーヒーのFrom Seed to Cupのサプライチェーンをすべて見る事ができるというものです。SCAA2015に参加しているコーヒー関係者の多くが、この店を見学の為、訪れていました。

本年度のSCAA大会は、27回目。年次シンポジウムは7回目。昨年度は1万人以上の来場者があったとのこと。さらに2009年度以来となる、World Barista Championshipが行われました。本年度のSCAA会長は、Paul Thornton氏から、Java CityのShawn Hamilton氏に交代。昨年度から引き続き、世界中から集まるスペシャルティコーヒー関係者がネットワークできるように、パーティ等、多くの交流の機会が用意されていました。4月9日の18:00から始まったオープニングセレモニーは、去年にも増して華やかなものでした。その中で、私達日本人の目を引いたのが、昨年 リミニのWorld Barista Championshipに優勝した井崎バリスタが、オープニングセレモニーに出演し、世界中から集まった聴衆を前に堂々と話をしたこと。井崎バリスタのユーモアを交えたトークに会場は爆笑に包まれました。日本人でもこの大舞台で聴衆の笑いを取るような話ができるのか、と感動したシーンでした。本年度は、オープニングセレモニーの後に、SCAA Block Partyが企画されるなど、世界中から訪れるスペシャルティコーヒー関係者のネットワーキングこそが重要だという考え方がはっきりと打ち出されていました。

展示会場では、400社以上が750ブースを出展。生産国からは35ブースが出展されました。

大会会期中は、IRC(International Relations Council)、WCR(World Coffee Research)のミーティング、CQIランチミーティング、IWCA朝食ミーティングに参加しました。World Barista Championshipには、日本からレックコレクティブ(株)の岩瀬バリスタが参加。7位という成績を収められました。

セミナーには2つ参加しました。1つが、Economics of Quality and Price :Insights from Cup of Excellence Auction Data。このセミナーは、カップオブエクセレンスの関係者が行ったものではなく、Auburn Universityという大学の先生が、Cup of Excellence(COE)のオークション落札結果を研究して、国別にその傾向を探るといった研究結果の発表でした。セミナーの聴衆の中に、インターナショナルジャッジとしてCOEに参加した人が

いて、その人が発言するなど、聴衆とスピーカーのやり取りが非常に活発でした。スピーカーの大学の先生も、実務に携わっている人から、研究結果についてぜひ意見を聞きたいという非常にオープンな態度で、この聴衆とスピーカーの間のインタラクションは、日本には見られないものだと感じました。2つ目のセミナーは、How to Mitigate Coffee Price Volatilityというもので、これは全部スペイン語で行われました。対象が生産者で、いかにコーヒーの価格をヘッジして、相場が下がった時に対処するかという内容でした。講師の言葉で印象的だったのが、「皆さん、車を運転するなら保険に入るでしょう。ヘッジは保険です。保険に入って下さい。皆さんの仕事は、コーヒーをやることです。値段のことを心配することではありません。」生産者が多数熱心に聞いていましたが、この中で何人の人が講師の言うことを聞いて、実際にヘッジをするのだろうかと思いました。

SCAE(設立1998年)のスウェーデン・ヨーテボリ大会。シアトルの町と違い、ヨーテボリはいかにもヨーロッパという、洗練された大人の街という感じでした。この大会をもって、Cosimo Libardo氏がSCAE会長職を辞し、Paul Stack氏が新会長になるとのこと。Cosimo Libardo氏には、今回改めて話すことができました。Libardo氏の持論は、SCAA、SCAEやSCAJの様な世界のスペシャルティコーヒー協会ができるだけ協力して色々な事業を一緒に行えば良いということでした。今回の大会に先立って6月15日・16日に開催されたスペシャルティコーヒーのシンポジウム「Re:co」はSCAAではもう数回実施されているが、ヨーロッパで実施されるのは、今回が初めてのこと。残念ながら今回は参加できませんでしたが、機会があれば参加してみたいと思います。SCAE専務理事David Veal氏によるとヨーテボリ大会の参加者を5,000人と予想しているとのこと。競技会としては、World Coffee Roasting Championship、World Brewers Cup、World Cup Tasters Championship、World Latte Art Championship、World Coffee in Good Spirits Championshipが実施されました。日本選手団は皆健闘しました。なかでもWorld Latte Art Championshipに参加した名倉バリスタが4位という成績を残されました。

SCAE大会は、SCAA大会程、大きな規模ではなかったのですが、その分参加者の交流の密度は高かった気がします。SCAA大会、SCAE大会と比較して、日本で、日本人を中心として行われるSCAJ大会は、また独特な大会であると思います。本年度9月30日、10月1日、2日に行われるSCAJ2015大会では、海外からのコーヒー関係者と活発に交流し、日本のコーヒー市場への理解を高めていただくよう努力します。

日本スペシャルティコーヒー協会  
会長 長谷川 勝彦

## ワールドバリスタチャンピオンシップ(WBC)2015結果報告



### ワールドバリスタチャンピオンシップ2015を終えて ～日本代表 岩瀬バリスタ～

今年もバリスタ世界一を決める大会、World Barista Championship (以下: WBC)がアメリカはSeattleの地で開催されました。このWBCは今回の2015年大会で16回目の開催、つまり15人の世界チャンピオンが生まれているということです。そんななか、昨年2014年のイタリア大会に出場した井崎バリスタは名誉ある日本初、アジア初の世界チャンピオンになりました。

私はバリスタ委員の代表として、今回のシアトル大会に同行しました。

ここで、今回のWBC開催地、このシアトルの地について少し書かせてください。

アメリカ・ワシントン州シアトルは、言わずと知れたスターバックスやタリーズなどの本拠地があり、ピーツコーヒーやスタンプタウンなど、町中いたるところに有名カフェやロースターがあるという、まさにコーヒーの町、カフェの町とも言えるべき場所です。こんなコーヒーの聖地ともいえるべき場所で実施された記念すべきWBCが今回のシアトル大会でした。

現地では、今回ほど日本代表に注目が集まった大会も珍しいと感じました。やはり前年に井崎バリスタが世界チャンピオンとなり、その影響はかなり大きかったのか、会場入りしても様々な選手や関係者から声をかけられました。決してアウェーな感じはなく、とてもやりやすい会場入りすることができ、様々な関係者、日本からの応援団などと簡単な交流もでき、無理なく事前練習などをして過ごせたと思います。

予選当日、いよいよ岩瀬バリスタの競技となりました。今回がWBC初出場の岩瀬バリスタですが、その競技、そのプレゼンテーションは、このシアトル大会で十分に存在感を見せつけたと思います。岩瀬バリスタの使用したコーヒーはパナマ・ゲイシャ種です。最近よく聞くパナマのコーヒーかと思いますが、このコーヒーは、岩瀬バリスタ自らがパナマに渡り、生産処理を施しています。

コーヒーを生産・プロデュースした会社と協力し、岩瀬バリスタがパナマに渡り、コーヒーに対する要望を出し、それにプロデューサーが応える形で作られたもので、その生産処理方法はまさに岩瀬バリスタのオリジナルです。

WBC競技におけるテーブルセッティングでは、特にその中身がしっかりと表現されており、細分化されたボックスは最初閉じられており、岩瀬バリスタの解説とともに開けていくと、徐々に彼がおこなったプロセスと、その秘められた全貌が明らかになる仕掛けとなっていました。

岩瀬バリスタがおこなった生産処理は少し特殊なものです。これは収穫したコーヒーをグレインプロトという生豆を入れる丈夫な袋に入れ、それを川の水に浸けてゆっくりと発酵を促すというもので、これにより岩瀬バリスタが望んだ「コーヒーの甘さ」を作るといったものでした。

この試みにより豆が徐々に甘さとアロマを増していく過程を説明し、そしてその味わいをエスプレッソでも表現するというものでした。

私も飲んでいますが、岩瀬バリスタのコーヒーは本当に、驚くほど甘いです。そして素晴らしいクリーンさを持っていました。この甘さとクリーンさを作った大きな要因、その1つはこのオリジナルの生産処理であり、もう1つはコーヒー豆を収穫する働き手、いわゆるピッカー達の精度や努力にあると、岩瀬バリスタはプレゼンで話しました。

岩瀬バリスタは自分たちがおこなったオリジナルの生産処理と、そしてそれを通じて体験し、体感したピッカー達の果てしない努力と工夫、そしてその努力は実は豆にかかる大きなコストとなっていること、それらのことを15分間に凝縮し、ひとつひとつしっかりとプレゼンテーションしました。

岩瀬バリスタの競技は今でもWorld Barista Championshipのライブストリーミングでご覧いただけます。このような背景が存在していたことを感じながら、どうか1度、ライブストリーミングで、岩瀬バリスタの競技を見てほしいと思います。それは本当に情熱的で、力強く、想いのこもった渾身のプレゼンテーションです。その力強さや素晴らしさは、言葉の壁を越えたパワーとなって伝わってくると思います。

予選を見事に3位で突破した岩瀬バリスタでしたが、準決勝では緊張のせいもあって数カ所でポイントを落とし、6位までが決勝進出のなか、惜しくも7位という成績でした。しかし1度はトップ3まで届く成績を収めたこと、そしてその渾身の競技は、同じ日本人として本当に誇らしいものでした。

この原稿執筆時は7月、今月中にはJBC大阪予選がスタートし、8月には東京予選もはじまり、9月末にはいよいよSCAJ展示会での本選です。

今年はどうなる日本チャンピオンが生まれるのか、いよいよJBC2015からも目が離せなくなってきました。

バリスタたちの熱い戦いを観戦しに、皆様もぜひ会場へ足を運んでくださいますよう、お願いします。

バリスタ委員会 副委員長 阪本 義治

## 世界大会結果

### ワールドバリスタチャンピオンシップ

2015年4月9日～12日 米国・シアトル 参加48カ国

順位	氏名	国籍
優勝	Sasa Sestic	オーストラリア
2位	Charles Babinski	アメリカ
3位	Ben Put	カナダ
4位	Chan Kwun Ho	香港
5位	Maxwell Colonna-Dashwood	イギリス
6位	Charlotte Malaval	フランス
7位	岩瀬 和由	日本



### ワールドラテアートチャンピオンシップ

2015年6月16日～18日 スウェーデン・ヨーテボリ 参加36カ国

順位	氏名	国籍
優勝	Caleb Cha	オーストラリア
2位	Xuechao Wang	中国
3位	Kyeong-Woo Jung	韓国
4位	名倉 麻央	日本
5位	Arnon Thitprasert	タイ
6位	Hong-Sheng Liao	台湾

### ワールドコーヒーイングッドスピリッツチャンピオンシップ

2015年6月16日～18日 スウェーデン・ヨーテボリ 参加14カ国

順位	氏名	国籍
優勝	George Koustoumpardis	ギリシャ
2位	Ondrej Hurtik	チェコ
3位	Paul Ungureanu	ルーマニア
4位	Eduardo Affonso Scors	ブラジル
5位	Sang Moo Hyun	韓国
6位	Sang Ho Park	イギリス
8位	大淵 修一	日本

### ワールドコーヒーロースティングチャンピオンシップ

2015年6月16日～18日 スウェーデン・ヨーテボリ 参加10カ国

順位	氏名	国籍
優勝	Audun Sørbotten	ノルウェー
2位	Joanna Alm	スウェーデン
3位	Min Keun Choi	韓国
9位	江口 崇臣	日本

### ワールドカップテイスターズチャンピオンシップ

2015年6月16日～18日 スウェーデン・ヨーテボリ 参加36カ国

順位	氏名	国籍
優勝	Juan Gabriel Cespedes	コスタリカ
2位	Mateusz Petlinski	ドイツ
3位	Yoeri Joosten	オランダ
4位	Krisse Mcgregor	ニュージーランド
5位	Piotr Sowa	ポーランド
6位	田原 照淳	日本

### ワールドブリューワーズチャンピオンシップ

2015年6月16日～18日 スウェーデン・ヨーテボリ 参加28カ国

順位	氏名	国籍
優勝	Odd-Steinar Tollefsen	ノルウェー
2位	Konstantinos Iatridis	ギリシャ
3位	Benjamin Prager	スイス
4位	Sarah Jean Anderson	アメリカ
5位	Rob Kerkhoff	オランダ
6位	Ruslan Shulga	ロシア
22位	上田 脩太	日本



## SCAA2015 シアトル紀行



## シアトル発展の歴史

SCAA2015の舞台となったシアトルはアメリカ西海岸北部、カナダと国境を接するワシントン州最大の都市です。日本ではイチローの在籍したシアトルマリナーズのホームとして有名です。またコーヒー関係ではスターバックス社の創業の地であり本社所在地でも知られています。都市部の人口は約65万人、緯度的には日本の北海道より北に位置しますが沿岸を流れる海流の影響で比較的温かな気候です。2013年には全米都市好感度調査で1位に選ばれており、アメリカでの住みやすい都市、住みたい都市のひとつに常に挙げられています。

シアトルの開拓は1851年アーサー・デニー率いる開拓団が現在のパイオニアスクエアに入植したのが始まりと言われています。当時は近隣の豊富な木材や毛皮の集散地の小さな町でしたが、1890年代後半にカナダ、アラスカに相次いでゴールドラッシュが起こると、金鉱を目指した大勢の人々が押し寄せる中継地として大きく発展しました。余談ですが現代のシアトルの街を歩くとダウンタウンは東西に急坂になっていますが当時はあの急坂が港まで木材を運ぶのに都合良かったのだそうです。20世紀に入るとゴールドラッシュと前後して建設が進められていたグレートノーザン鉄道がシアトルまで開通し、アメリカ東部と西海岸北部を結ぶ新たな大動脈が完成しました。これによりシアトルはアメリカ北西部の物流ターミナルとして発展してゆきます。グレートノーザン鉄道はその後当時の日本郵船と提携してシアトルから太平洋をまたいで日本、香港に至る物流網を結び、シアトルは北米とアジア圏との貿易窓口ともなりました。現在でもシアトルの発展を語るとき「グレートノーザン鉄道を父として、日本郵船を母とする。」という言葉がよく使われています。時は下って1962年に開かれたシアトル万博ではスペースニードルをはじめモダンな建物が建設され世界中の注目を集めました。50数年前に建てられたとは思えない斬新なデザインのスペースニードルは現在でもこの街のランドマークとしてそびえています。

## 意外と知らないシアトルの世界企業

現在では本社をシカゴに移してしまいましたがアメリカ最大の航空機メーカーのボーイング社は1916年にシアトルで創業しました。当時は軍用の練習機を作っていました。現在でもシアトル近郊のエバレットに主力工場を有して777や787といったお馴染みの旅客機を製造しています。全米最大の高級デパートと言われるノードストロームは19世紀末にスウェーデン移民の一家がシアトルで創業した靴店が始まりで現在でもシアトルのウェストレイクにクラシカルな建物の本店店舗が威容を誇っています。

マイクロソフトは1979年にアルバカーキからシアトル近郊のベルビューに移り、その後言わずと知れた世界企業に成長しました。また世界的通販会社のアマゾンドットコムも1994年にシアトルで創業し現在もシアトルに本社があります。その他会員制小売のコストコも1983年にシアトルに誕生していますしアウトドア用品のREIもシアトルの企業です。

企業ではありませんがシアトルゆかりの有名人として天才ギタリストのジミ・ヘンドリックス、カンフー映画のスターブルース・リーが知られています。



## シアトルとコーヒー

冒頭にも書きましたがシアトルと言えばスターバックスというぐらい全世界的に知られ、今回のSCAA2015でも昨年に引き続きメインスポンサーを務めているビッグネームですが、1号店は1971年パイププレースマーケットの一角にオープンしたカフェでした。その一年前の1970年にはシアトルズベストコーヒーが前身のスチュアート・ブラザーズ・コーヒーとしてシアトル市内に開業しています。おそらくこの2社がシアトル市民に受け入れられた事によって1980年代後半から1990年代半ばにかけて次々とロースター・カフェがシアトルに誕生しています。エスプレッソ・ヴィヴァーチェ、カフェ・アパシヨナート、ラドロ、カフェ・ヴィータ等々が有名です。シアトル系という言葉が出来るくらい一躍コーヒー文化発信基地として知られるようになったのはこの頃からです。

そして2014年末、スターバックスは40数年を経て、この創業の地に「ロースター&テイスティングルーム」という1400平米の巨大な店舗をオープンさせました。世界の生産国の選り抜きのコーヒーを生豆から焙煎を経てカップまで居ながらにして楽しめるコーヒーのアミューズメントパークのような施設で、SCAA期間中は世界のコーヒー関係者で溢れていました。



## 番外：シアトルとエチオピア

今年のSCAA2015ではメインスポンサーはスターバックスでしたが一方生産国代表のポートレイトカントリーはエチオピアでした。カンファレンス会場のブースはもとより各種のセミナーでもエチオピアコーヒーをテーマに様々な角度でエチオピアとエチオピアコーヒーが紹介されていました。ところで、シアトルを訪れてタクシーを利用した経験のある人はお気づきと思いますがシアトル市内にはエチオピア人のタクシードライバーがとて多いのです。あるタクシードライバーによればシアトルには2万人以上のエチオピア人(エリトリアも含む?)が生活していて、タクシードライバーの80%はエチオピア人だそうです。エチオピアはかつてハイレセラシエ皇帝の時代(~1974年)に積極的にアメリカに留学生を送っていましたが、革命によって帝政が倒されると多くの留学生が帰る場所を失ってアメリカに残されてしまいました。シアトルにもかなりの数のエチオピア人が残り、その後の政治的問題や干ばつ、貧困などの理由で多くのエチオピア人やエリトリア人が難民や移民としてシアトルに渡って現在に至っているそうです。今では市内にもエチオピアの言語であるアムハラ語の新聞やテレビ番組もあり、数件あるエチオピア料理のレストランがシアトルの人々にも好評を博しているそうです。

シアトルでは昨年に引き続き2年連続のSCAAカンファレンスでしたが、現代のコーヒー世界の中心と言っても良いコーヒーにあふれたこの街で、スターバックスとコーヒーの故郷であるエチオピアがクローズアップされ、改めて気づかされる事が多くありました。普段はコーヒーと言う商品の側から見る事が多い世界を別の角度で眺めることの楽しさも思い起こさせたシアトル訪問でした。

来年2016年のSCAAはジョージア州アトランタに場所を移しますが、アトランタでもまた新しい何かに触れられたらと今から期待しています。

広報委員会 委員 永田 卓



# Scott Conary氏によるジャパンバリスタ チャンピオンシップ(JBC)審査員資格認定プログラム



6月27、28日と東京、麻布台の株式会社FMIを会場に、バリスタ委員会主催のJBC審査員資格認定プログラム(JCP)が開催されました。講師はWBCのヘッドジャッジであるスコット・コナリー氏。参加者は50名と昨年より増え、会場は熱気に包まれていました。

2日間のプログラムは下記の流れで進みました。

## [1日目]

- ・トライアングレーション(カップング)
- ・ジュースの銘柄当てとブレンドの中身を当てる
- ・ルール&レギュレーションの講義  
点数のつけ方、評価の仕方、ジャッジプロトコルの説明。
- ・エスプレッソ及びミルクビバレッジの味覚、点数の共有。  
3人一組になり、提供されたドリンクを共有し点数やフレーバーコメントを共有するトレーニング。

今回からカプチーノの項目がミルクビバレッジというものになり、新たな基準でジャッジされるため質問も多く出ていました。エスプレッソの味覚、点数の共有の時間では、バリスタのたてたエスプレッソを3人一組の受講者がテイस्टイングし評価、直後にスコット氏の評価とすり合わせというセッションをしました。まず受講者の評価を聞き、スコット氏がそれに対して「このエスプレッソの酸の特徴は？全体のバランスは？」と細かく突っ込みます。エスプレッソは1ショットごとに微妙に出来が異なりますので、前のテーブルのコメントは参考にできません。自分たちの目の前に出されたエスプレッソに集中しスコット氏と意見を交換します。

## [2日目(テスト)]

- ・バリスタテスト(エスプレッソ4杯提供)  
テクニカルジャッジのプロトコルの理解度の試験。  
5分の準備時間、5分で4杯のエスプレッソを抽出、片付け2分のミニ競技を受講者全員が審査。
- ・筆記試験  
例年の試験とは異なり、ルールアンドレギュレーションの中からのみ出題され、筆記形式が主の試験。



- ・実技  
デモバリスタ(井崎バリスタ他)による、競技を実際にジャッジし点数の共有と正確にジャッジできているかのテスト。

今回JCPを初めて見学させていただきましたが、座学よりはより実践的なすり合わせが多く、2日目にはテストもあるので参加者の真剣な姿勢が印象的でした。競技会の現場で起きうることを想定した、具体的で細かい質問も多くあったため講師のスコット氏も「グッド クエスチョン!」を連発していました。

広報委員会 委員長 丸山 健太郎



井崎バリスタ



スコット・コナリー氏

# 北のスペシャルティコーヒータウン 札幌レポート



丸美珈琲 MARUMI COFFEE STAND NAKAJIMA PARK



徳光珈琲 大通店

札幌はもともとコーヒーの文化が盛んで、25年前に私がコーヒーを始めた時も「訪れるべき名店」リストの中に札幌も何軒もあり、いつか訪れたいと思っていたものです。時は流れ、今やスペシャルティコーヒーの時代になりました。私も2005年ごろからは年に一回は札幌を訪問できるようになり、定点観測をしてきました。福岡のコーヒーワールドが熱い、と前号で書きましたが、札幌も盛り上がりつつあるのではないのでしょうか。6月に札幌を訪問する機会がありましたので、その際に訪問した三軒を紹介いたします。

新千歳空港でレンタカーを借り、まずは札幌市南区のスタンダード・コーヒー・ラボを訪問しました。オーナーの大磯さんはジャパンラテアートチャンピオンシップ2015のファイナリストです。数年前のSCAAポートランド大会の時に会いましてお話しして以来、ぜひお店にお邪魔したいと思っていました。南区の藤野にあるお店に着くと大磯さんは焙煎をちょうど終えられたところで、コーヒーをいただきながらカウンターで直接お話を聞くことができました。ラテアートを始めたきっかけは?とお聞きすると「オープン当時はカッコいいということでエスプレッソマシンを置いたのですが、ラテアートにトライしてみたところ、お客様に喜んでいただいたのでどんどんラテアートの魅力、楽しさにのめりこんでいった」そうです。ラテをいただきましたが、アートの美しさだけでなく自家焙煎された豆の味がしっかりと出ていてとても美味しかったです。お店の居心地も良く、つつい長居してしまいます。北海道の若いバリスタたちにどんどんと各種大会に挑戦してほしいとおっしゃっていました。

その後、市内中心部へ向けて車を走らせました。丸美珈琲の札幌市内2店舗目のMARUMI COFFEE STAND NAKAJIMA PARK(マルミコーヒー スタンド ナカジマパーク)を訪問しました。中島公園近くにあるスタンド形式のお店です。当日はオーナーの後藤さんはSCAJカップングセミナーのため不在でしたが、元気な若いバリスタたちが出迎えてくれました。お店はとてもお洒落でヨーロッパやアメリカのスペシャルティカフェのようです。

リップコーヒーを店内でいただきました。散歩の途中のカップルが来店してテイクアウトしていったり、年配の女性グループがカプチーノを楽しんでいたりして素敵な雰囲気でした。

その後、徳光珈琲 大通店にうかがいました。大通ビッセという商業ビルの2階にあり、ガラス張りで大通を見下ろせるロケーションです。お店に入ろうとするとちょうどセミナーが終わったSCAJカップングセミナー講師陣とばったり。やはり皆同じことを考えている(笑)。こちらはトラディショナルなカフェスタイル。訪問時はカップル客が多かったです。雰囲気の良い店の証拠ですね。徳光珈琲さんではケーキとシングルオリジンのドリップを美味しくいただきました。徳光珈琲さんも丸美珈琲さんも複数店舗展開されていて元気です。スタッフも若い方が多く、ここから巣立っていくホープがたくさんいるのではないのでしょうか。

福岡でもそうでしたが、スペシャルティコーヒーで身を立てたいと思う若者が目標にできる店があり修業・勉強できる環境があります。札幌がコーヒータウンとしてさらに花開くような予感がします。

広報委員会 委員長 丸山 健太郎

## ジャパンハンドドリップ チャンピオンシップ (JHDC) 2015 結果報告



### ジャパンハンドドリップ チャンピオンシップ2015を終えて

今年4年目を迎えたジャパンハンドドリップチャンピオンシップ2015。ルールは毎年のごとく変更をしているわけだが、今年の変更点の一つは決勝会場でした。今まで SCAJカンファレンス中に行われていたが、ブリュワーズカップの決勝を行うことで会場変更となった。場所は東京都立産業貿易センター浜松町館。東京予選の会場であるJCビルディングの約4倍の規模を誇る巨大な展示会場。ここで14名のファイナリスト達が優勝を目指して戦った。

今年のルールは均一性の量を廃止、250ml~300ml抽出と500ml以上抽出の2カップで審査が行われた。センサー項目は250ml~300ml抽出のカップで、均一性は2つのカップで審査された。予選参加者160名の内、決勝へ進めるのは14名。厳しい予選トーナメントを2度勝ち抜けてきたファイナリスト達は、独自の理論で熱いプレゼンテーションを展開した。そしてもう一点、今年の大きな変更点が決勝大会での統一豆である。一ヶ月前に送付された1kgの豆をファイナリスト達は様々な検証をしプレゼンテーションを組み上げてくる。予選とは違う器具で挑戦してきた人、ペーパーからネルへ変更した人、2つの抽出を別々の器具で抽出した人。同じ豆でも全員が違う味を出していたと思われる。

味に影響を及ぼす要素は多い。ペーパーや器具はもちろんのことメッシュ、湯温、そしてお湯の投下速度や蒸らしの時間。蒸らし中に蓋をするという新しい試みの競技者もいた。会場内に設置された天井カメラからはファイナリスト達の注ぎの瞬間をモニターで見ることができ、コーヒー粉の膨らみまでもしっかりと確認ができた。会場中が息を飲む瞬間である。その14名のファイナリスト達の頂点に立ったのがJHDC初となる女性チャンピオン高橋由佳さんだ。彼女は形状の違うドリッパー(円錐と扇形)を使い見事に高い均一性を表現した。その理論、お湯を注ぐ技術、何よりも日々の業務の中で培ってきた経験が揺るぎない自信となり自ずとチャンピオンの栄光を引き寄せたのだろう。これから一年間、様々な場所でチャ



ンピオンとしてハンドドリップコーヒーの魅力を伝えてもらいたい。そして会場内ではスポンサー展示エリアやBrew Barの設置を行った。Brew Barでは3箇所に抽出台を準備、約1時間毎にスポンサーはもちろんJHDC2013チャンピオン尾籠氏やJHDC2014チャンピオン土井氏、JBrC2014/15チャンピオン上田氏などにハンドドリップでのコーヒーを振舞っていただいた。豆は決勝大会で使用している豆であったりご自身で持ち込まれたものであったりと会場に来られていた方々に楽しんでいただけたと思う。

来年は今年以上の大会に出来るよう努力していきたい。

コーヒーブリュワーズ委員会 委員 小林 智也

#### ジャパンハンドドリップ チャンピオンシップ 結果

順位	氏名	会社名	店舗名	所在地
優勝	高橋 由佳	Un Cafe Sucre株式会社	Cafe' Sucre'	東京都
2位	田原 照淳		珈琲蘭館	福岡県
3位	堺 武司	極東ファディ株式会社	コーヒー焙煎工房	福岡県
4位	岩鼻 伸介	Happiece Coffee	ハビスコーヒー	岩手県
5位	有延 宏之		アリーカフェ	石川県
6位	飯田 悠太	株式会社フジイ	ピストロアベック	東京都
7位	菊池 結衣	株式会社ユニマツプレジャス	可否茶館 苗穂店	北海道
8位	河毛 卓			三重県
9位	梶 真佐巳	株式会社トールコーヒー	トールコーヒーショップ 船橋駅南口店	千葉県
10位	山村 和幸	ロアジャパン株式会社	ブルックリンバーラー大阪	大阪府
11位	橋崎 卓	橋崎商事株式会社	喫茶 サンシャイン	大阪府
12位	藤井 和宏		すまコーヒー	静岡県
13位	矢沢 政治		ペーグルカフェ ニコ	東京都
14位	額額 伸子	SHRUB	シュラブ	岐阜県
棄権	谷村 和紀			東京都

## ジャパンサイフォニスト チャンピオンシップ (JSC) 2015 結果報告



### ジャパンサイフォニスト チャンピオンシップ2015を終えて

ジャパンサイフォニストチャンピオンシップ(JSC)2015の決勝が7月1日(水)に浜松町館で開催された。

毎年運営側としては、予選の競技者が少ない事に頭を抱えながら、どうしたら出場される競技者が増えるのだろうと模索している。そんな中今年は2日間の予選の各日定員20名 合計40名が埋まった予選会となった。そして今回の決勝でその40名の中から上位8名の競技者が勝ち残り、優勝を競った。

競技会自体では昨年からルール改定となったサイフォン抽出の均一性をチェックする為、ブレンド抽出の際の4本のサイフンの抽出時間を計り、その差によって加点される項目は競技者たちも注意を注いだポイントであったであろうと思う。また審査員が座るテーブルコーディネートも数年前までは少し華美になりすぎている感もあったが、昨今はシンプルなかにもテーマ性を持ったコーディネイトをするサイフォニストが多く、テーブルを見ただけでも一貫したテーマを感じる事ができる。そして競技自体のテーマもよりシンプルで分かりやすい表現が増え、そのシンプルなテーマのプレゼンテーションの中にも深みを持たせたのが、優勝を勝ち取った中山サイフォニスト(株式会社丸山珈琲)であったと思う。

中山サイフォニストのブレンドコーヒーは、ここ数年ブレンドコーヒーをシングルオリジンの焙煎違いで作る競技者も多い中、カップングで魅力を感じたコロンビアとボリビアのブレンドをサイフォンで表現する事にこだわったものであった。またグネチャービパレッジも水の違いをうまく使い、その水の違いを審査員に分かりやすく説明したのも良い結果につながったのだと思う。競技者は往々にして、練習を重ねる中で自分のプレゼンへの自分自身での



理解が深まり、自分では分かり切っている事を審査員にうまく伝えられない事がある。そういった意味では中山サイフォニストのテーマからプレゼン、見せる工夫は強者揃いの決勝進出者のなかで、頭ひとつ抜き出ているのであろう。

今回優勝を勝ち取った中山サイフォニストは9月30日から開催されるSCAJ展示会会場で10月2日に開催されるワールドサイフォニストチャンピオンシップ(WSC)に日本代表として出場する。WSCへは2回目のチャレンジとなり、前は準優勝と健闘しただけに、今回も良い結果を期待したいと思う。

最後に今大会を予選会から決勝まで関わって頂いた方すべてに感謝の意を表します。

コーヒーブリュワーズ委員会 委員 倉永 純一

#### ジャパンサイフォニスト チャンピオンシップ 結果

順位	氏名	会社名	店舗名	所在地
優勝	中山 吉伸	株式会社丸山珈琲	東京セミナールーム	東京都
2位	中井 千香子	ユーシーシーフードサービスシステムズ株式会社	UCCカフェコンフォート 神戸さんちか店	兵庫県
3位	井出 春香	株式会社丸山珈琲	MIDORI長野店	長野県
4位	三島 奈々	株式会社丸山珈琲	ハルニレテラス店	長野県
5位	久保 洋子	東和フードサービス株式会社	椿屋カフェキラリナ 吉祥寺	東京都
6位	辻 明彦	ユーシーシーフードサービスシステムズ株式会社	UCCカフェコンフォート 神戸市庁舎店	兵庫県
7位	石橋 千早季	ユーシーシーフードサービスシステムズ株式会社	UCCカフェプラザ 博多駅ビル店	福岡県
8位	芹口 大輔	東和フードサービス株式会社	椿屋珈琲がし離れ	東京都

# 新委員長紹介

## 会員開発委員会

会員開発委員会は、スペシャルティコーヒーの普及、啓蒙を一層促進するためのSCAJ会員増強活動を企画、推進することを目的に活動しています。

当委員会におけるこれまでの努力に加え、特にサードウェーブに代表されるように、近年我が国においてもおいしいコーヒーに対する理解と需要の高まりもあり、現在会員数は法人618、個人837、海外14と順調に増加しています。

当委員会では、現在の状況はスペシャルティコーヒーへの理解と消費を一層推し進め、業界の発展をはかる絶好の機会ととらえるとともに、当協会の果たす役割が今まで以上に求められていると認識しています。スペシャルティコーヒーのすばらしさをできる限り広めるため、会員開発活動に全力で取り組む覚悟です。

地方における会員の裾野を広げなければ、協会の発展もありえないと考えます。今年は、非会員向けSCAJ事業説明会(カップリングセミナー付き)を名古屋と札幌で開催し、それぞれの地区における会員獲得に集中的に取り組めます。

また、これとは別に、地方での会員大会を開催し、会員でありながら、東京での展示会や教育事業等に参加できない皆さんのために、当協会の活動状況や、スペシャルティコーヒーの最新情報をお届けし、会員同士の親睦、交流を深める機会の提供も企画しています。中期的には、各地域で核となる会員を育成し、SCAJが開催する各種セミナーなどを地域単位で誘致し活発に実施できるようになればと考えています。

会員の皆さんからのご意見にも耳を傾けながら、会員増強を進め、当協会の活動をさらに活発なものにしていきたいと考えますので、ご指導とご支援をお願いいたします。

会員開発委員会 委員長 秋本 修治

## コーヒーブリューワーズ委員会

当委員会は、コーヒーの抽出を通じ、スペシャルティコーヒーの普及、啓蒙活動を促進することを目的に活動しています。おもな活動は、セミナーの開催と、4つの競技会です。

### セミナー

- 抽出セミナー  
一般、初心者対象。抽出理論とメカニズムの理解及び、抽出の基礎技術を取得する。
- 資格講座セミナー(8月予定)  
受講資格者が対象。今年度は、ジュニアコーヒーブリューワー、中級コーヒーマイスターの資格取得講座。
- チャンピオンセミナー(9月30日、10月2日予定)  
各競技会の優勝者が講師のセミナー。優勝した秘訣や、独自の抽出理論の解説、試飲などが体験できます。

### 競技会

- WSC(ワールドサイフオニストチャンピオンシップ)  
サイフォン抽出の競技会で、世界大会。10月2日(予定)。
- JSC(ジャパンサイフオニストチャンピオンシップ)  
サイフォン抽出の競技会。7月1日決勝。
- JHDC(ジャパンハンドドリップチャンピオンシップ)  
ハンドドリップ抽出の競技会。6月30日決勝。
- JBrC(ジャパンブリューワーズチャンピオンシップ)  
機械的動力を使わない手動の器具を使用し抽出する競技会。  
10月1日決勝(予定)。

以上の通り、活発な活動をしています。

いずれも、たくさんのボランティア・ジャッジの方に参加していただいています。コーヒーを生業にしている私たちにとって、輪が広がり、より強い絆づくりができることに、大いに感謝いたします。

これからの2年間は、中・上級資格を取得できる講座の取り組みと、新しい抽出器具の抽出理論の構築や、掘り下げなどの研究が大事です。また、競技会においても、3年後、5年後を見据えた方向性を検討し、「ありたい姿」に向かったの計画作りに取り組めます。ブリューワーズ委員会も、一丸となって頑張ります。会員の皆様の、ご協力をよろしく願いいたします。

コーヒーブリューワーズ委員会 委員長 神原 栄

## ローストマスターズ委員会

ローストマスターズ委員会は、スペシャルティコーヒーの焙煎技術の習得と啓蒙活動を目標としています。スペシャルティコーヒーのもつ素晴らしい風味特性を表現するのに、焙煎技術の構築は欠かせません。そのため以下の活動を行っています。

焙煎技術の習得には3つの活動があります。この3つに欠かさず出席することで焙煎人同士の交流と情報交換の場が生まれ、焙煎技術の構築に大きく寄与します。

### ●ワークショップ

ひとつの課題豆をそれぞれの焙煎機にて焙煎し、それを持ち寄りブラインドでカップリングします。それにより同じ豆でも焙煎方法・環境の違いにより大きな味の差につながることを実感できます。カップリング会場に来られない方は通信で受講することも出来ます。

### ●リトリート

焙煎人の為の合宿です。2泊3日で行いますが、国内で販売されている焙煎機の多くを会場に揃え、実際に焙煎できます。そしてセミナー、カップリングと充実した3日間です。

### ●ローストマスターズチームチャレンジ

SCAJの最終日に行っていた「ローストマスターズチャンピオンシップ」の名前を改めました。これは日本国内の地域ごとにチーム編成をします。そのチーム内で協力してひとつの課題豆を焙煎し、SCAJ会場にて評価いたします。

資格認証、競技会は以下の活動を行っています。

### ●ジュニアローストマスターの認証

認証試験は年2回行う予定です。

### ●ジャパンコーヒーロースティングチャンピオンシップ

今年も9月に予選、11月に決勝大会を行い、優勝者はワールドコーヒーロースティングチャンピオンシップに日本代表として派遣する予定です。

ローストマイスターズ委員会 委員長 内田 一也

## バリスタ委員会

2014年のワールドバリスタチャンピオンシップ(WBC)にて井崎バリスタが世界チャンピオンとなり、ワールドラテアートチャンピオンシップ(WLAC)でも村山バリスタ、吉川バリスタが優勝するなど日本のトップバリスタのレベルは大変高くなっています。エスプレッソやバリスタ技術の普及啓蒙という点を考えると必要になってくるのがバリスタを職業とする方やバリスタを始めたばかりで基本的な知識や技術を勉強したい方へ向けたセミナーになってきます。本年度はスタート編として、バリスタ基礎講座を開催しスペシャルティコーヒーに基づいたバリスタの基本、エスプレッソの基礎知識、バリスタの基礎技術などを修得するセミナーを5月から6月にかけて全国4カ所で行いました。しかし参加希望者が大変多く、今回参加できなかった方の為に再度、秋に行うことが出来ればと考えております。

今年、WBCのルール&レギュレーション(R&R)の大幅な変更がありました。その中でもセンサリースコアシートのカプチャー項目がミルクビバレッジに変更されミルクを使ったドリンクの幅が広がりました。ジャパンバリスタチャンピオンシップ(JBC)2015は、新ルールを採用しますので、新ルールに対応したジャッジの評価基準づくりも重要になってきます。その為に2009年より毎年開催しているJPC(審査員認定プログラム)へWCE理事のScott Conary氏を迎えR&Rの変更点を中心に審査員認定プログラムを行いました。R&Rの変更で最も重要になってくるのが、競技者にこの変更点を説明する事です。この為、JCPの翌日にScott氏による選手向けのセミナーを東京にて行い、競技会へ参加するバリスタだけではなく技術向上をめざすバリスタ、そしてジャッジなど多くの方に参加いただきました。

2月のジャパンラテアートチャンピオンシップ(JLAC)2015で優勝した名倉バリスタがヨテボリで行われたワールドラテアートチャンピオンシップ(WLAC)2015にて4位に入賞されました。WLACの上位選手はアジア勢で占めておりアジアのラテアートのレベルの高さを感じました。

同じく2月のジャパンコーヒーイングッドスピリッツ(JCIGS)2015で優勝した大淵バリスタはワールドコーヒーイングッドスピリッツ(WCIGS)2015におきまして8位という結果になっております。

今年のJBC2015は、7月から8月にかけて東京と大阪で予選を行い、9月30日、10月1日SCAJ2015展示会場にて準決勝・決勝大会を予定しています。今回のWBCのR&R変更によるミルクビバレッジの多様性やプレゼンテーションに注目したいと思います。

これまでのセミナーでは、JBC、JLACのチャンピオンやトップバリスタの皆さんに講師やデモバリスタとしてご協力を頂いております。今後もこれらの方々から委員会事業にご協力頂き、バリスタとしての技術や知識を講師として教えて頂くセミナーを計画したいと考えています。

セミナーや各種競技会を通じて、バリスタ技術の向上と知識を深めて頂きスペシャルティコーヒーの魅力伝える事の出来るバリスタが増えるように積極的に委員会活動を行っていきます。皆様のご協力をお願い申し上げます。

バリスタ委員会 委員長 富川 義之

## International Women's Coffee Alliance

## 日本支部設立報告



調印式

2013年9月にインターナショナル・ウーマンズ・コーヒー・アライアンス(IWCA)日本支部設立に向け活動がスタートし、昨年2014年9月設立準備委員会が発足されましたが、このたび、SCAAシアトル大会、IWCA第13回朝食会にて、糸井副支部長により正式調印されました。

IWCA日本支部の設立は、ペルーに次いで19番目の国で23番目の支部になりました。各国の「コヒジョ」が集う煌びやかな会場で、日の丸をバックに品格ある凛とした趣深い一時でした。

IWCAは2003年にコーヒー生産に携わる女性の生産技術と地位向上、持続可能な社会生活の実現を目的としてコスタリカでNPO法人として設立されました。現在はニューヨークに本部を置きコーヒーの生産国の60%である17カ国がIWCAに加盟しております。

設立のきっかけは、アメリカとカナダのロースターの女性グループが生産地ニカラグアを訪問した際に、コーヒーの収穫、選別作業などの単なる労働集約的な仕事しか携われない生産国の女性達、労働格差の厳しさを目の当たりにしたことです。そこから、「Woman Share/Help Woman」女性が女性を支援する～をキーワードに女性達にコーヒー生産技術や意識改革のトレーニングを実施し、リーダー人材育成を行い、生活向上を目指す活動をはじめました。

女性グループをつくり他地域と交流し、グループ内で情報をシェアする事で、自分達の農園の生産性向上に共同貢献し、適切な報酬を得て女性に貯蓄するシステムをつくり、その資金を子供達の健康や教育の為に使う事で、生活レベルが向上します。

また、他地域とのつながりを持つことで、お互いの暮らしを可視化し、互いに学ぶ機会を得る事で成長してゆきます。コーヒーを通じて、人と人のつながりをお互いに学び合い助け合う事をIWCAは行っています。

今年10月15・16日ボゴタにて第4回IWCA国際コンベンションが開催されます。ExpoEspeciales2015と同時開催で沢山プログラムが準備されており、初のIWCAバリスタ大会も開催されます。ぜひご参加くださいませ。

## ■IWCA活動の4つの基柱

1. 支部統轄と開発
2. コミュニティ構築の為に改善・向上活動
3. コーヒーの各分野における能力開発の為に研修
4. 資本開発とコーヒー生産設備の支援開発

消費国で米国を除き、最初に設立された日本支部。女性活躍促進が議論されるこの国では、雇用均等法から25年しか経っておらず、女性に対する理解がされ始めたばかりで、まだまだ変革期といえましょう。

雇用や社会活動の様々な課題に対し、しなやかに取り組む女性の生き様は、生産国であろうと消費国であろうと多様性に満ち溢れ、共有できる事と思います。

ポードレスにサポートし合い繋がりを持つことで、美味しいコーヒーが出来るサプライチェーンに留まらず、貧困、環境汚染、雇用、過疎化など、世界共通の社会問題に取り組む活動を可能にする展望があります。

1杯のコーヒーを持つあなたの手から、世界の「コヒジョ」と手を取り合ってみませんか。

## ■IWCA日本支部 今後の活動予定

2015年夏頃  
IWCA日本支部のSNSを立ち上げ、  
情報発信開始

2015年9月末  
IWCA日本支部定例会  
SCAJ2015展示会3日目(10月2日)に朝食会を実施予定

SCAJ2015展示会期間中、IWCA日本支部ブースにて  
プロモーション活動

2015年10月15日、16日 コロンビア ボゴタにて開催  
IWCAコロンビア(ExpoEspeciales 2015)  
初のIWCAバリスタ大会に日本の女性バリスタ出場  
(初参加募集予定)  
FNC、CQI主催コロンビアコーヒー/セレクトハーベットの参加  
※詳細は8月以降、SCAJホームページにおいても告知予定です。

末筆ながら、日頃よりサポート頂いておりますSCAJ関係者の皆様、設立準備メンバーの皆様、多くの労力と貴重なお時間をご提供いただき、この日を迎えられる事に心より感謝申し上げます。

- ・ IWCAのURL : <http://iwcajapan.org>
- ・ お問い合わせメールアドレス : [iwca.japan@gmail.com](mailto:iwca.japan@gmail.com)

IWCA日本支部 漆原 愛美



## 日本最大のスペシャルティコーヒーイベント

SCAJ ワールド スペシャルティコーヒー カンファレンス アンド エキシビション 2015

## Invitation to Diversity

## SCAJ 2015

SCAJ WORLD SPECIALTY COFFEE CONFERENCE AND EXHIBITION

## 多様性への招待

品質の基本をふまえたスペシャルティコーヒーの多様性が、マーケットの発展を持続させる

日本最大のスペシャルティコーヒーイベントが今年も東京ビッグサイトで開催! 国内外の関連企業100社・200ブースが出展し、数多くの生産国からスペシャルティコーヒーと情報が集まる年に一度のビッグイベント。会場内特設ステージでは「ジャパンバリスタチャンピオンシップ2015」など5つのコーヒー競技会を同時開催。生産国セミナーやカップングイベントも多数開催されます。スペシャルティコーヒーのすべてが集まる「SCAJ2015」にぜひご来場ください。

開催日時  
2015年9月30日[水]~  
10月2日[金]  
10:00~17:00  
\*最終日は16:00まで

主催  
一般社団法人  
日本スペシャルティコーヒー協会

会場  
東京ビッグサイト  
[西4ホール]

後援  
外務省 ※予定

来場見込  
2万5000名  
(2014年来場者 24,142名)

入場料  
1,500円(税込)

展示会ウェブサイト <http://www.scajconference.jp>

出展申込・来場予約・各種セミナー申込は  
展示会ウェブサイト受付予定



一般社団法人  
日本スペシャルティコーヒー協会  
<http://www.scaj.org>



2015年 競技会  
ジャパン バリスタ チャンピオンシップ  
準決勝・決勝

ワールド サイフオニスト  
チャンピオンシップ

ジャパン ブリューワーズ カップ  
準決勝・決勝

ジャパン カップテイスターズ  
チャンピオンシップ 準決勝・決勝

ロースト マスターズ チャンピオンシップ

◆詳しい情報は展示会ウェブサイトをご覧ください

出展者  
募集中

SCAJ2015展示会事務局  
[info@scajconference.jp](mailto:info@scajconference.jp)

SCAJ2015展示会事務局  
イベント&コンベンションビル8F  
〒110-0016 東京都台東区台東4-27-5 秀和館ビル8F  
TEL:03-3831-2698 FAX:03-5807-3019  
[info@scajconference.jp](mailto:info@scajconference.jp)

## Editor's note [編集後記]

世界大会が終わると、国内では暑くて熱い季節の到来です。9月30日(水)~10月2日(金)のSCAJ2015で開催される競技会に向けて、各地の予選会場で熱戦が繰り広げられています。参加される皆さんは、体調管理をしっかりして、日頃の努力の成果を存分に発揮してください。

広報委員会 / 堀内 隆志